

「世界を対象としたニーズ対応型地域研究推進事業」最終評価結果表

研究領域等	研究領域1 日本と諸地域との関係性の解明—協働に向けて—
研究課題名	人道支援に対する地域研究からの国際協力と評価—被災社会との共生を実現する復興・開発をめざして—
責任機関	大阪大学
研究代表者	中村 安秀（大学院人間科学研究科・教授）
研究期間	平成18年度～平成22年度
主に研究対象とする国名	（ インドネシア ） （ 東ティモール ）

総合評価

- S. 所期の研究計画以上の取組が行われた。
 A. 所期の研究計画と同等の取組が行われた。
 B. 概ね所期の研究計画と同等の取組が行われたが、一部で当初計画以下の取組もみられた。
 C. ある程度所期の研究計画と同等の取組が行われたが、当初計画以下の取組もみられた。
 D. 所期の研究計画以下の取組であったが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組もみられた。
 E. 総じて所期の研究計画以下の取組であった。

〔コメント〕

当初計画に沿って、多様なステークホルダーが複雑に絡む被災地域や紛争地域を対象に、研究者と復興支援に関わる実務者との協働による現地調査の実施や研究集会の開催を通じて、地域の社会・文化特性に配慮した復興支援のあり方に関する学際的な評価方法が開発された。

また、現地事情を視野に入れた人道支援に関する評価手法が提示され、それが「支援に関わるステークホルダー」への提言として整理されたことは評価できる。ただ、被災社会との共生を実現するための市民参加型の手法については、なお検討の余地が残る。

我が国の人道支援に関するデータベースが構築され、研究成果の発信にも努力している。本プロジェクトにより構築された、研究者、NGO等の実務家、JICAならびに政府関係者等のネットワークによって、プロジェクト終了後も、データベースの維持・充実、国際機関との連携による評価手法の国際的発信、実践的な地域研究の一層の推進に向け、そのネットワークが実質的に機能していくことを期待したい。

項目ごとの評価

1. 本事業の目的及び研究領域等の趣旨に合致した研究が実施されたか。

- A. 十分実施された B. 概ね実施された
 C. ある程度実施された D. あまり実施されなかった
 E. 実施されなかった

[コメント]

一部地域については治安上の問題で調査を実施することができなかったが、インドネシアのアチエ州および東ティモールにおいて、当初の計画どおり、地域社会や地域住民の視点にたった学際的な現地調査が実施された。

また、我が国の人道支援に関係する省庁、JICA、NGOなどの実務担当者が参加する研究集会等を活発に開催し、これら関係者のネットワークを組織した。これらの活動を通じて、被災地域あるいは紛争地域の復興に向けた支援のあり方に関する評価手法が開発されたことは、我が国の今後の人道支援の指針を提供する重要な成果と言える。

これら被災地域の調査研究を通じて、地域研究者と人道支援に関わる実務家とを架橋する実践的な地域研究の展開可能性を示したことは、本研究領域の趣旨に合致する研究活動であったと評価できる。

2. 設定されている社会的・政策的ニーズに応える形で研究が実施されたか(研究の過程)。

- A. 十分実施された B. 概ね実施された
 C. ある程度実施された D. あまり実施されなかった
 E. 実施されなかった

[コメント]

自然災害・地域紛争発生時の緊急支援から、その後の長期にわたる被災地域の復興支援に至るまで、本研究課題では、地域の文脈に沿った人道支援のあり方を追究するという一貫した視点で調査研究が実施された。

現地調査においても、また国内でのさまざまな研究集会でも、地域研究者と他分野研究者との共同、そして研究者と支援に携わる実務者との協働のもとに研究が実施されており、今後ますます増加が予想される人道支援のあるべき方向性を示したという点で、社会的・政策的ニーズに十分に定める研究が実施されたことは評価できる。

3. 社会的・政策的にニーズに応える研究成果が創出されたか。

- A. 十分創出された B. 概ね創出された
 C. ある程度創出された D. あまり創出されなかった
 E. 創出されなかった

[コメント]

人道支援を地域の視点から学際的に評価しようとするのは初めての試みであり、かつ質的側面に重きをおいた人道支援の評価手法の開発は、実際にそれを必要とする人たちに支援を着実に届けるといふ、政策的ニーズに合致した研究成果であった。また、人道支援のあり方について、地域を対象とする研究者との共同によって政策実施の効果が高められることを示した点も高く評価できる。

また、これらが「支援に関わるステークホルダー」への提言としてまとめられたことも、政策的ニーズに応える研究成果であった。

しかしながら、支援を受け取る被災地や支援を与える側の市民参加のあり方やそれを評価するための手法など、当初から計画されていた市民参加型手法については、十分な検討がなされずに終わっている。

また、我が国の人道支援活動の具体的事例に関するデータベースの構築は社会的ニーズに応える成果であったが、その内容はまだ限定的で、この点については、今後の一層の充実を期待したい。

4. 学術的に高い水準が確保されているか。

- A. 十分確保されている B. 概ね確保されている
 C. ある程度確保されている D. あまり確保されていない
 E. 確保されていない

[コメント]

地域の特性を考慮した長期にわたる人道支援の評価手法を提示したことは、実践的な地域研究の新しい領域を切り拓く研究成果であったと評価できる。

しかしながら、本研究課題は、アクション・リサーチ的な研究活動としては十分に高い水準を確保したとはいえ、既にさまざまな国際機関等で採用されている復興支援事業の評価手法との比較研究を通じた、研究成果の一般化や国際的発信という面では、今後さらに高い水準での成果が生まれることを期待したい。